聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2024 年
2 月 1 日発行
第 268 号

それぞれが自立へのプロセスを歩むということ

寒い日が続いておりますが、時折の日差しがやはり、春立つ風の待たれる頃を思わせてくれます。平素は聖母の小さな学校の教育に格別のご理解、ご協力をいただき、深く感謝いたしております。

2 月から 3 月にかけて、中学校では高校入試、卒業式など大きな事があります。進路の決定については、どこに進学しようかと考えがちですが、本校としては、本人が自分の今の状態を丁寧に捉え、自身が社会生活（学校生活も含めて）をする上で、その場の人間関係の密度（人数・交流度合 等）に対してどの程度の力がついているか、又、社会の中での規範が積極的に受け入れられるかなどをもとに、本人が保護者、原籍校、本校と相談したり、共に考えたりしながら決定して行くようにしています。今春である必要はありません。1 年準備をしても良いのです。

卒業式についても、出席できたかできなかったか、とか、形式をどうするか…例えば、「ひとり」で「校長室」で「保護者」と「学年の先生たち」の中で卒業証書をもらった…緊張して行ったけど、意外にあっさり終わった、というようになりがちです。なんだか少し寂しい気がいたします。やはり「不登校」に出会った本人と家族が自立に向けて自分のプロセスをどのように歩んだか、歩んでいるかが問われるのではないか。原点に返ってみたいと思うのです。原点に返ると、人間の本質に出会えます。必ず成長していきます。

降って湧いたように自分の前に出てきた「不登校」。大人は原因は何かと探ったり、この「起こってしまった事実」と戦って戦って疲れ切ってしまいます。その疲れ切った中であっても、静かに「我」を見つめることができるようになると、諦めでもなく、「これが事実だ」と現実を見ることができます。その現実を見た時の１％の「本当の安心感が感じられます」（本校保護者の発言）。そこから再度、社会との関係（自分との関係も含め）を築くことができます。それぞれが独自のプロセスを歩むことになります。その日々の先に手にすることができるのが進路です。そして、自分にとっても大事な節目の卒業式が、どんな形でも誇らしく「自分の母校」（本校卒業生の発言）と呼べる心のこもったものになるのではないかと思います。中学３年生が義務教育を終えるまでの残り２か月間、丁寧に導きたいと思います。

1/17 「日展」見学

1 月 17 日には、京セラ美術館まで「第 10 回日展」の鑑賞に出かけました。生徒も 5 名参加し、メモ帳片手に熱心に見ました。又、本校の陶芸の指導者：高井 晴美 先生も入選しておられます。特に熱心に見学し、先生に報告したところです。作者の渾身の作、魂に触れる楽しいひと時でした。

今月は 17 日（土）に「ウズベキスタン料理教室」があります。本校で教えていただいているアシルベク先生が代表的料理「サムサとラグマン」を教えてくださいます。皆様の参加をお待ちしています。

＜今月の主な行事＞

7 日（水）お楽しみ遠足（京都）
9 日（金）・16 日（金）ギター教室
13 日（火）・27 日（火）ウズベキスタン文化
15 日（木）華道教室
17 日（土）親子料理教室
「本場のウズベキスタン料理を作ろう！」
26 日（月）調理実習
28 日（水）体育